

フットサルチーム 結成

4月始動 はや関西大会切符つかむ



①丹波支援学校で結成されたフットサルチームの生徒たち。昼休みの練習で汗を流す(南丹市八木町)

②6月の対外試合で相手と競り合うオレンジ色のピスを着た丹波支援学校の選手(京田辺市田辺・田辺中央体育館)＝丹波支援学校提供

と、放課後も自主練習でボールを追う。石原教諭らが指導し、チーム力を高めた。6月22日には初の対外試合があり、2チーム10人が出場した。京田辺市での「全国特別支援学校フットサル大会(京都大会)」で2勝3敗と奮戦。7月29日の関西大会(堺市)の切符を得た。

主将を務める高3の田村龍海さん(17)は「僕たちはまだ始めたばかり。伸びしろはあると思うので、次も頑張る」と気合が入る。練習時間は登校後すぐの朝15分、昼休み30分、通学バスが出る下校前30分と多く取れない。それでも夏休みにも特別練習をするなど、士気は高い。石原教諭は「結果も大事だけど、みんながサッカーをやりたくて、学校に来るのが楽しいと思ってくれているのが一番」とほほ笑む。(長谷川稔)

「伸びしろある」

練習に熱

丹波支援学校(南丹市八木町)にフットサルチームが結成された。4月から始動、6月には対外試合で善戦し、7月の関西大会出場を決めた。チーム練習にも熱が入る。中学部と高等部の計10人を決める。攻守に動き人が昼休みに体育館に集まり、汗を流した。サッカークラブ経験者はほとんど。ブルーのユニフォームを着た生徒が、ディフェンダーをかわしてゴールゲームを楽しむ生徒を

見た石原邦彦教諭が「サッカーしてみるか」と声をかけたのが、チーム結成のきっかけ。初めてフットサルに触れた中3の南雲琉那さん(14)は「個人競技と違ってみんなで協力してできるのがうれしい。でも男子には負けたくない」と、放課後も自主練習でボールを追う。

丹波支援学校

勝利へ全力一丸

須知高

須知高(京丹波町豊田)の男子ホッケー部が、九州で開催した全国高校総体(インターハイ)に挑む。4年連続17回目の出場。ホッケーは長崎を会場に、須知高の初戦は27日にある。「チーム一丸となって頑張りたい」と力を込める。

同部は1999年の大会で準優勝。昨年はベスト8進出を果たした。

部員数は必要な11人に対し12人とギリギリだが、メンバー全員が小中学校からのホッケー経験者。主将の徳岡隆治さん(17)と山田星碧さん(17)はU18男子ユース日本代表に今月選ば

れた。西田真史監督(59)は「人数が少ない分、先輩を近くで見られる2年生が力をつけている」と期待する。初戦は、昨年も初戦の相手だった埼玉代表の飯能高と対戦する。徳岡さんはベスト4進出を目標に掲げ、「昨年より上を目指す。応援してくれている人たちに良い結果を報告できるように勝ちにいきたい」と健闘を誓った。(町塚葵)



男子ホッケー部 高校総体4年連続出場
「4強進出」健闘誓う